

地域循環共生圏フォーラム 2023 開催レポート

2023年11月7日の「地域循環共生圏フォーラム2023」(オンライン開催)は、おかげさまで延べ400名以上の方々にご参加いただき、大盛況のもと、終了いたしました。お申込み・ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

オープニングセッション・分科会のいずれにおいても、地域づくりのワクワク醸成・モヤモヤ解消にまつわる様々なノウハウ・ヒントが共有され、質疑応答の時間には多くのご質問もいただきました。

本レポートでは、当日の各登壇者のご発表内容・ポイントや参加者の感想をお伝えします。当日参加された方も、参加できなかった方も是非ご覧ください。

オープニングセッション 「持続可能な地域のつくり方」

【基調講演】

寛 裕介氏 (issue + design 代表)

【対談】

寛 裕介氏 × 佐々木 真二郎氏 (環境省 地域循環共生圏推進室長)

コーディネーター: 高橋 真寿美氏 (地域循環共生圏プラットフォームコーディネーター)

【概要】

寛氏からは、圧倒的な実践知に基づき築かれてきた、「持続可能な地域づくりのアプローチ」について、具体的な事例やノウハウもまじえながら、ロジカルにわかりやすくご説明いただきました。負の循環を正の循環に変えていくために、本質的に解決すべき課題を見極めていくことや、分野横断型プロジェクトを作りだすことが有効であるなど、地域づくりのプロセスにおいて普遍的に役立ち、常に立ち返るべき視点をご教示いただきました。

対談では、アプローチや考え方における地域循環共生圏との共通点についても触れていただきました。

参加者からは、“なぜ持続可能が必要なのか？が丁寧に説明されていた”、“地域の課題について、取り組み方が包括的に整理されていてわかりやすかった”、“自分たちの取り組みが間違っていないことに勇気づけられた”、といった感想が寄せられました。

！ポイント！

- ・ 新しいことを始めるときには仲間を見つけ、同じ未来を描いて前に進んでいく。
- ・ 地域の現状を見つめ、しっかりと課題を見える化(イシューマップ化)し、地域に向き合うこと。
- ・ 意欲がある人が動ける場を作ることが重要で、自治体のなかで仕組化していくことも必要。

分科会①「現場からお届け！地域循環共生圏づくりのチェックリスト（案）」

【登壇者】

- 江口 健介 氏(地球環境パートナーシッププラザ(GEOC))
高橋 朝美 氏(関東地方環境パートナーシップオフィス(関東 EPO))
佐藤 直哉 氏(九州地方環境パートナーシップオフィス(EPO 九州))

【概要】

地域づくりの伴走支援をしてきた立場から、地域づくりの実施主体者が気づきにくい/認識しづらい躰きポイントについてチェックリスト(案)について、現場で起こっていることを踏まえながらご紹介頂きました。

参加者アンケートでは、“実際に関わってきた人達のリアリティな話が興味深かった”、“「つまづき」に焦点を当てたことが、逆に分かり易くて共感を持てた”、といった感想が寄せられました。

！ポイント！

- ・ 地域づくりには仲間を探すことが最初のステップ。巻き込みたい相手に応援したい/手助けしたいと思ってもらうには、時に弱みを見せることも重要。
- ・ 仲間を探すためには地域をよく見ている、仮説をもって話を聞きに行くことが必要。また、地域にどんな人が居るか知らないことを知っていることも大切な視点。
- ・ 組織の中のロジックと地域のロジックの違いを踏まえて巻き込むこと。
- ・ 地域プラットフォームに必要な役割は地域が目指すものによって変わる。必要な役割を考えられるような関係性、共通認識が重要。

分科会②「島の未来を創る熱量に、「今」投資を。人と仕事の好循環を生み出すお手伝い」

【登壇者】

- 阿部 裕志 氏(株式会社風と土と 代表取締役、AMA ホールディングス株式会社 取締役)
掛谷 祐一 氏(株式会社まきはた 代表取締役)

【概要】

阿部氏からは、海士町で、「未来共創基金」として島内で挑戦する人を応援し、人材が島に還流し続けることを目指した挑戦(未来投資)についてご紹介頂きました。

掛谷氏からは、自給経済圏(食を通じたつながり)をつくることを目指して取り組んでいる環境再生型の放牧酪農、牛乳・乳製品の販売事業や、未来共創基金に採択されるまでの伴走支援についてご紹介頂きました。

参加者からは、“オンラインでも、海士町関係者の熱量が伝わってきた”、“地域のワクワクにつながっている好事例であり、持続可能な仕組みづくりの参考になった”といった感想が寄せられました。

！ポイント！

- ・ 「未来共創基金」の採用には、収支計画等経済的な観点だけでなく、島の環境・社会への貢献という観点が重要。
- ・ 島内に共に取り組む仲間がいることを重視。地元の人に理解してもらい、応援してもらうため、事業者が説明していくことが大事。
- ・ 基金の応募に落ちてでも声掛けしたり、フォローすることもある。伴走は事業を一緒に作っていくことが大事で、応援する相手にとって良い形となるよう考えていく。
- ・ 事業主体自らが取組を SNS 等で発信することで、島内外から様々な人に声をかけられ、新しい視点をもつ仲間も増え、視野が広がる。

分科会③ 「食」から始まった地域づくり。広がり、つながる循環と共生の輪

【登壇者】

伊藤 由理子 氏(生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 顧問)

五十嵐 康達 氏(酒田市地域創生部地域共生課 課長補佐)

【概要】

伊藤氏からは、庄内地方での生産者と消費者の交流を基礎とした「食」「エネルギー」「福祉」の自給を目指す取り組みにおいて、生活クラブ(生産者側)と自治体を目指す地域づくりがつながり、様々な分野での連携に発展させていったプロセスをご紹介頂きました。

五十嵐氏からは、生活クラブとともに地域づくりをすることになったきっかけや「参加する暮らし」をコンセプトとした移住施策(TOCHITO)での連携についてご紹介頂きました。

参加者からは、“生活クラブと酒田市の連携プロセスが詳しく知れてよかった”、“酒田市の魅力が伝わった”といった感想が寄せられました。

！ポイント！

- ・ 地域に生業や収入源があったとしても、そこで暮らしたいと思える地域社会としての魅力がないと、地域の持続可能性や豊かさにはつながらない。
- ・ 地域の生産者、そして全国の消費者とつながる生活クラブとの意見交換により、改めて地域の魅力に気づき、移住施策のターゲットを絞り込むことにも繋がった。
- ・ 民間との連携により生まれる推進力は、様々な取組の実現や広がりにもつながり、行政だけでは成し得ない地域づくりの形を生み出してくれる。

分科会④ 「行政主導で地域の SDGs ビジネスを支援する～官民連携によるアクセラレーター運営の実践ノウハウ～」

【登壇者】

谷中 修吾 氏(BBT 大学 経営学部 教授 / BBT 大学大学院 経営学研究科 MBA 教授)

杉村 龍司 氏(静岡県くらし・環境部 環境局 環境政策課企画班 班長)

【概要】

谷中氏からは、行政がアクセラレーターとなり、行政主体の信用力に基づくプログラムを主催し、協力パートナーと連携し、ビジネス専門の知見を持ち、実務目線のアドバイスができるプロデューサーやメンターに伴走してもらうことで、事業成長支援をする仕組みについてご紹介頂きました。

杉村氏からは、SDGsビジネスアワードに向けた行政サポートやメンタリングの具体的な流れや、事業者からの手ごたえ等をリアルな実践経験からお話いただきました。

参加者からは、“静岡県の熱意が伝わった”、“結果への期待を手放しプロセスを楽しむという言葉が非常に印象的”、“公共性と事業性の両立が難しいという点に非常に共感できた”といった感想が寄せられました。

！ポイント！

- ・ 行政は座組づくりとアクセラレーターの役割を担うことで地域循環共生圏の地域 PF の創造をする。
- ・ 地域の環境課題解決のための体制づくりが必要であり、事業者の所在する自治体との連携が必要。
- ・ プロボノ含め、第三者の視点から俯瞰してアドバイス頂くことも有効。
- ・ 地域の中でプレイヤーが出てくることで、相互につながり拡散される好循環が生まれていく。

分科会⑤「未来のために、環境のために、みんなで目指すプラごみゼロ～循環型社会の実現にむけて～」

【登壇者】

名倉 真也 氏(亀岡市環境先進都市推進部環境政策課 副課長兼環境保全係長)

【概要】

地元の動きから始まり、「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」をするまでの動き、宣言以降、外部の企業との連携をうまく活用しながらプラごみ対策を進めてきた事例について紹介頂きました。環境教育やマイボトルの促進などの取組を経て、市民向けとしてもゴミ分別の区分を拡大し、環境先進都市に向けた更なる挑戦を進めています。

参加者からは、“地域での環境活動への取組みとして、多くのヒントを貰えた”、“内容が分かりやすく、非常に面白い取組みだと感じた。ぜひ、こういった取組みにチャレンジしてみたい”、“民間と行政が一体となり住民の行動変容に繋げた取組みが素晴らしい”といった感想が寄せられました。

！ポイント！

- ・ 市民の理解醸成に向けては、市が目指していくことは市民にとっても大切なことだというメッセージを背景も説明して、市民と一緒に考えていく事が成果に繋がる。
- ・ 企業との連携協定は、環境問題に1点テーマを絞り込み、具体的な取組を決めて締結している。ただし、企業がその活動を継続しているためには、環境活動と企業側の利益が繋がることも必要だと考えている。そのために、事前に企業とはできること、できないことを共有し、方針を擦り合わせる事が重要。
- ・ 企業と連携した取組を発信することで、更なる連携が進む好循環に繋がっていく。

分科会⑥「チャレンジ歓迎！地域外の人材とも連携したまちづくり」

【登壇者】

小西 亜実 氏(東川町企画総務課企画財政室 室長)

泉 拓哉 氏(東川町役場企画総務課 マネージャー(地域活性化起業人)、NEC ネットズエスアイ(株) 営業統括本部 ビジネスプロセスイノベーション推進本部 コンサルティング推進東日本グループ 主任)

【概要】

小西氏からは、東川町で取り組んでいる「東川スタイル」のまちづくりについて、外部企業との連携や外部人材との連携をもとに進めてきた事例について紹介頂きました。

泉氏からは地域活性化企業人として、東川町でのペーパーレスや業務環境の改善、滞在型オフィスの整備などに取組む他に、外部人材同士のネットワークについてご紹介頂きました。

参加者からは、“プラットフォームの成功事例として参考になった”、“地域と企業との連携がうまくいっており、地域での活動が楽しそうに見えた”、“地域づくりに対する団結感を感じた”といった感想が寄せられました。

！ポイント！

- ・ 東川町の職員数は少ないので、自分たちのアイデアには限界がある。職員みなで、役場を出て多くの人と出会いつながることで、新たな考え方や意見を取り入れ、町を良くすることができると考え活動している。
- ・ 町では三つのない(前例はない、他の市町村ではやっていない、財源がない「からできない」)は言わない。なんでもチャレンジしていくことが大事。
- ・ 外部人材と連携した取組みも含め、新しい事業でどう町民の福利に資するか常に考えている。
- ・ 外部人材の方とは、担当の職員がついて一緒になって進めることが基本。その上で、自分のやりたいことを見つけてもらい、ミスマッチを減らす。

分科会⑦「エネルギーで地域を強くする！地域の「環境」と「経済」変革の時」

【登壇者】

中島 一嘉 氏(株式会社アズマ 代表取締役社長)

清水 広行 氏(エネシフ湖北 代表、ONE SLASH/RICE IS COMEDY 代表、滋賀県 MLGs ふるさと活性化大使)

【概要】

中島氏からは、「強い田舎を創る」という観点から、環境・経済・社会の側面からエネルギー事業を含む地域課題解決型の事業についてご紹介頂きました。

清水氏からは、地域づくりの「手段としてのエネルギー」も含む地域づくりの取組についてご紹介頂きました。

参加者からは、“お二人の地域を良くしたいという熱い思いが伝わってきた”、“目標を共有することの大切さを感じる事ができた”といった感想が寄せられました。

！ポイント！

- ・ 地域を良くしたいという想いを持つ人は多い。地域をよくするための手段として多くの人と繋がる。地域の人と繋がりができると、困りごとが集まってくるため、解決方法として脱炭素をつなげていけば良い。
- ・ 地域のことを本気で考えており、未来のイメージが同じであれば一緒に取組を進めていける。
- ・ 地域にないものは地域の外からも持ってくるが、内製化することが重要。
- ・ 人によってスピード感は異なる。何ができるか一つずつ上げて進めていく事が重要。

分科会⑧「産官学民のあらゆる関係者の取組発信を通じて地域共創を促す『Platform Clover』～豊田市での実践と協働～」

【登壇者】

照屋 友紀 氏(法政大学 デザイン工学部 川久保研究室 リサーチアソシエイト)

社本 学 氏(豊田市企画政策部未来推進課)

【概要】

照屋氏からは、SDGsに資する取組の見える化を通じて産官学民のつながりを生み出すオンラインプラットフォーム『Platform Clover』についてご紹介頂きました。

社本氏からは、「とよた SDGsパートナー制度」のリニューアルにおいて重視した交流・発信・つながりの強化、Platform Clover への登録を必須とするプロセスを加えることで行動につなげる工夫についてご紹介頂きました。

参加者からは、“自治体との協働取組が具体的で参考になった”、“予算さえ通れば、一番実践しやすいと感じた”といった感想が寄せられました。

！ポイント！

- ・ SDGs の達成や地域課題解決に向けた「行動」を重視した仕組みづくりにより、本気の企業・団体とともに目指す地域をつくっていく。
- ・ 民間企業・団体も異業種や他の取組とつながることに関心があり、ニーズとシーズがプラットフォーム上でつながることで、新たな共創が生まれていく。
- ・ リアルでの交流も仕掛けて盛り上げながら、ニーズとシーズがたくさん集まることで、オンラインでもマッチングが自然と起こっていく流れを生み出したい。